

私の一般質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を11時30分といたします。

〈午前11時22分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

松田徳彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。〔2番 松田徳彦君登壇〕

○2番（松田徳彦君）

日本共産党の松田徳彦でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、地域公共交通の確保について。

路線バスの利用者が減少することにより、バスダイヤが縮小し、時刻表が赤字だけの路線が増えています。つまり、日曜・祝日は全て運休で、土曜日には数便の運行です。減便により不便になれば、さらに利用者が減っていくという悪循環に陥ります。

市の基本方針は、市民生活を支える地域公共交通の確保を図ることです。以下、伺います。

(1) 上南地区でのスクールバスを利用した「買い物・通院送迎バス実証事業」は、期間の半分を過ぎましたが、どのような状況でしょうか、伺います。

- ① 登録人数。
- ② 利用した登録者数。
- ③ 延べ利用者数。
- ④ 1日の平均利用者数。
- ⑤ 利用者の評価。

(2) この実証事業は、運行日・時間が限られていますが、低料金でもあり、路線バスなどの他の交通機関への影響をどう捉えていますか、伺います。

(3) 幾つかの自治体のオンデマンド交通を視察・調査してきましたが、当市においては、路線バスが維持できないところを、市が運営し、事業者に委託するオンデマンド有償運送に代えていくことが有効と考えます。予約・調整はAIではなく人が行い、車両は定員10人以下のワゴン車を市が購入し、貸与する方法を提案しますが、検討できないか伺います。

2、会計年度任用職員の処遇について。

会計年度任用職員制度は、令和2年に非正規職員の待遇改善や採用を適正化するために始まりました。この間、順次改善が図られてきました。

(1) 会計年度任用職員の現状について教えてください。

- ① 人数と男女の比率。
- ② フルタイムとパートタイムの比率。
- ③ 専門職のフルタイムとパートタイムの比率。
- ④ 平均給料。
- ⑤ 勤勉手当の支給人数。
- ⑥ 時間外手当の支給人数と年平均時間。
- ⑦ 週5日・1日7時間以上を勤務時間とするパートタイムの人数。

(2) 会計年度任用職員に年齢制限はありますか。また、定年制度はありますか。

(3) 会計年度任用職員にも人事評価が実施されますが、昇給だけでなく再度の任用（年度更新）にも直結します。特に丁寧・公正に行い、納得を得ることが必要です。結果について申立てはできますか。

(4) 令和7年12月25日付で、総務省から「会計年度任用職員制度の適正な運用等について（通知）」が県知事宛てに発出されていますが、市にも周知されていますでしょうか。

### 3、防災、減災、災害関連死防止について。

令和6年の能登半島地震から2年経過しましたが、地震の関連死が増加し、直接死228人の2倍を超える490人になります。

地形等が似通った糸魚川市として、教訓を酌み取り、今から対策を講じる必要があると考えます。

私は、昨年、宮城県岩沼市で政務調査をしてきました。岩沼市は、2011年の東日本大震災の津波で、約半分の面積で浸水被害を受け、避難者は6,800人を超えました。直接死は180人でしたが、関連死は6人でした。迅速な対応とコミュニティの維持を復旧・復興まで貫いたことが強調されていました。

(1) 市内において道路寸断等で孤立のおそれのある地区はどれぐらいあると把握していますか、伺います。

(2) 初動対応、迅速な対応には市役所建物の耐震化はもとより、室内の対策も必要です。キャビネットや書棚、大型備品などは固定されていますか。また、ガラス飛散防止はされていますか、伺います。

(3) 避難行動要支援者はどれくらい登録されていますか、伺います。

(4) 車中泊避難は、エコノミークラス症候群や一酸化炭素中毒の危険があります。テントなどの貸出しはできないでしょうか。

(5) 体育館等の場合にプライバシー保護や盗難防止、感染症拡大防止のために、室内用テントを活用することはできませんか。

(6) 令和8年1月から災害時等の「船舶活用医療」の運用が開始されました。姫川港で活用できるように計画できませんか。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

松田議員のご質問にお答えさせていただきます。

1番目の1点目の実証事業の状況につきましては、1月末までの実績であります。1つ目の登録人数は26人、2つ目の利用者数は17人、3つ目の延べ利用者数は29人、4つ目の1日の平均利用者は3.2人、5つ目の利用者の評価は、おおむねよいとのご意見をいただいております。

2点目の実証事業における他の交通機関への影響につきましては、路線バスなどと競合していることは承知しておりますが、実証実験として実施しております。

3点目の市がワゴン車を購入、貸与することにつきましては、選択肢の一つであり、財源なども含め検討してまいります。

2番目の1点目の1つ目の会計年度任用職員の人数と男女の比率につきましては、2月16日現在で416人、男性が17.1%、女性が82.9%であります。

2つ目のフルタイムとパートタイムの比率につきましては、フルタイムが8.2%、パートタイムが91.8%であります。

3つ目の専門職のフルタイムとパートタイムの比率につきましては、保育士や看護師など免許・資格が必要な職種で、フルタイムが16.3%、パートタイムが83.7%であります。

4つ目の平均給料につきましては、フルタイムの平均給料月額は約23万7,000円です。

5つ目の勤勉手当は、任用期間や勤務時間等の要件により、12月賞与で189人に支給しております。

6つ目の時間外勤務につきましては、昨年4月から今年1月に時間外勤務をした人は、会計年度任用職員全体の約77%に当たる321人で、10か月分の実績により、算出した年間時間外勤務時間は約24時間、一月当たり約2時間です。

7つ目の7時間以上勤務するパートタイムの人数につきましては、64人です。

2点目の年齢制限及び定年につきましては、会計年度任用職員は年度ごとの任用制度であり、定年という概念はありません。

3点目の人事評価に関する相談窓口は、総務課としております。

4点目の総務省からの通知につきましては、7年12月26日付で県から発出されており、適正な運用に努めております。

3番目の1点目の孤立のおそれのある地区につきましては、県の調査の定義で、3集落と把握しております。

2点目の市役所における防災対策につきましては、随時対応しております。

3点目の避難行動要支援者につきましては、現時点で、登録者は1,561人です。

4点目の車中泊避難へのテントの貸出しにつきましては、現在のところ考えておりません。引き続き、避難所における生活環境の整備を進めてまいります。

5点目の避難所での室内用テントの活用につきましては、国の交付金を活用し、整備を進めております。

6点目の船舶活用医療につきましては、運用が開始されたところであり、情報収集に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁によって行いたいと思います。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

それでは、順番に再質問いたします。

1番の地域公共交通の確保についてです。

上南地区の実証で登録は26人、延べ利用者数29人という、1月末の段階という話ですけども、これはちょっと少ないような気もしますが、何か原因はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

1月末の状況で説明をさせていただきましたが、3連休前の20日で2月の運行が終わりましたので、2月の状況がまとまりました。登録人数につきましては、1人増えまして27名、それから利用者の方ですね、これは前は、1月末では17名だったんですけども、22名に増えております。延べ利用人数につきましては50人ということ。平均乗車利用人数については、3.2人だったものが、日数が増えたこともありますけども2.8人というふうになっております。

地域の中で多いか少ないかということで考えますと、地域の皆様、各区長さんですとか民生委員の方に登録の促しですとかそういったところをお願いしております。そういった中で、これだけの方からご利用いただいて、地域としても、ぜひ春以降も続けられないかといったようなこともお聞きしておりますので、それについては地域と皆様と、どういう形で実施ができるのかということについては検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

2月末で50人ということですからかなり増えてる。この間ですね、大雪警報が出るような状況もありましたので、その点では増えてきてるなど。それから、利用者の評価につきましても、おおむねよいと。それから、続けてほしいという声もあるということですので、市民の要望に応えたものにはなっていると思います。利用者からは、利用料金等を含めて具体的な要望は出ていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えします。

利用料金のご意見というのは、多くは、特にないんですけども、やはり距離、市外、能生エリア以外まで行けないのかといったところのご要望はいただいております。

ただ、スクールバスの空き時間の利用という中で考えますと、糸魚川地域まで移動ということになりますと、やっぱりそれなりの時間もかかりますし、運転士さんの負担ということもありますので、それについては、今回の実証実験の中では能生エリアの中ということに限定をさせていただいている。

糸魚川地域ということであれば路線バスも走っておりますので、路線バスに乗り換えていただく、もしくは鉄道、えちごトキめき鉄道を使っただくというような、組合せによって需要を満たしていただくというような形で運用していただくのがいいのかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

今回は、能生エリアの限定ということで実施されていますし、そういう点でいきますと、やはり何が分かってきたかという話になりますが、現状のように、谷筋の奥のほうまで大型バスを定時運行するというのはやはり効率がよくなく、採算が取れないのではないかと思います。ですから、今回のような予約方式ですね、これはやっぱり効率がよく、有効だということが分かってきたんじゃないかということが言えると思います。

それでは、（2）のほうですが、バスとの競合は当然前提ではありましたが、上南地区において、要望もあるようですので、毎週の運行に移行というのは可能でしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えします。

今回の運行については、地域の地域の方から運転手をさせていただいております。

そういった中で、最初、運転手さんの負担ということもあって隔週ということで始めておるんですけども、大分、地域の運転手さんも慣れてきたというところもあって、3月は、続けて毎週、毎日、人を入れ替えながらやってみるということで地元からは聞いております。

大分利用のほうも人数が落ち着いてきて、各地域の利用される方というのも見えてきたもんですから、地域ごとの組合せで、車の大きさについても平均2.8ですので、本当にスクールバスのハイエース、大型がいいのか、山間地へ行きますと道路の幅も狭い部分もありますので、そういったところも実証によって見えてきている部分というのは多くあるのかなと思っております。最終、こういったデータですとか、実際の運行の中の運転手さんが感じられたところ、そういったところも踏まえて、地域とどういう形がいいのかというところは検証していきたいと、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

かなり実証実験の効果がでてきていると思いますし、そういう点では、終了後も次のステップへ進めていただきたいと思います。

それでは、3番のほうですけれども、オンデマンド有償運送も選択肢の一つということでした。やはり公共交通を安定して持続可能なものにする必要があります。そういう点で、高額な車両は市が補助金で購入する。それも10人乗り以下にして、大型免許でなくても運転できるようにすれば、パートタイムを含めてドライバーを募集しやすくなると考えます。小型車に替えてドライバーが増えたという点では、ほかの自治体で効果が認められています。当市でもドライバー不足の対応策としても、車両の小型化を検討する必要はないでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

実証実験によってですね、大分利用も落ち着いてきて平均2.8ということで、軽ワゴン車でも対応できる人数というのが見えてきております。

ただ、実態として、1日当たりの最大というところで見ますと、5人という日があったり、1月は6人という日がございます。これの人数ですと、やはり軽ワゴン車ではちょっと難しい部分が出てきます。こういった日をどういうふうに対応するのか。例えば次の日とかで組み換えができるのか。この辺は、AIではできないんでしょうけども、地域の、人がやっている作業ですので、こういった組み換えができるのか、調整ができるのか。こういったところも地域の方々とちょっと話をしながら進めていきたいと。それに合ったような車のサイズというのを用意できるような形、市が貸与するかどうかという部分については、その財源の問題もございます。補助金がある、もしくはリースという形での財源がついているもの、こういったもののいろんな方法がありますので、そういったものを組み合わせながら、各地域でのその実験、実証という形での取組、それを進めていきたいというふうには考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

今もお話ありましたけれども、オンデマンドの中でもAIを使うかどうかという問題がありまして、私としましては、AIについては、効率化と言えない場合もあるというお話も聞いております。

また、小規模事業では、システム経費が負担になります。そういう点では、やはり先ほどもお話ありましたが、オンデマンドにする場合も、当面、予約につきましては電話とインターネットが有効だと考えております。

それで、現在、根知地区では、地域支え合い推進事業のメニューとして、高齢者の移動支援が実

施されています。自前の車両で月2回、タクシー並みに戸口から戸口で買物への送迎をして、運賃は無料で実施しています。利用者の、体が動くうちはお店での買物に出かけたいという声もあり、その声に応えたものになっています。

課題としましては、運転手の安定した確保、それから運賃、利用料ですね、をもらえるようにして、車両の維持などに充てられるようにしていただきたいということがあるそうです。また、利用者からも、幾らかであれば払ってもいいという声もあるそうです。

ただし、これは高齢者の移動支援ですので、路線バスなどの代わりに運行するということになる、現在の体制では難しいと思われま。

ほかに、今井地区などでも、安くて便利な交通の確保を求める声を聞いています。今後の実証事業の予定、計画はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

根知地域での支え合い事業による買物ですけども、これは根知地区の中でいち早く取り組んでいただいている事業ということで考えております。

ただ、月2回ということで、場所も買物ということに限定ということで、場所も決めた中での運行がなされているということでお聞きしております。実際の利用者のニーズとして、それが本当にいいのかどうか。能生地域の上南地域では、診療所ですとか、あと利用の状況を聞くと、支払いの関係でコンビニ、セブンイレブンへ行って、納付書で支払うといういったような利用も見られております。実証実験をやって、そういうところが分かってきておりますし、根知の地域の中でも、今度は要望という形でいろいろ出てくるかと思えます。地域の実情、それから利用者の方のニーズ、そういったもので、どうやって持続可能にしていくのかというところは、地域の方々と話し合いをしなければいけないかなというふうに考えております。

今後も実証実験の予定については、まずは、今の小滝地区ではコミュニティバスをずっと走らせていたんですけども、これ、小滝駅までしか行ってなかったんです。それを少し糸魚川市内まで足を延ばす形、その代わり料金のほうも少し上げてというようなことで、今地域と話し合いの中でそういう形はどうかということと来年度、変更して実施をする予定としております。

こういった今回の実証実験という形でやったものがベストではなくて、地域によってやっぱり事情が様々でございますので、地域の方と話し合いをしながら、その地域にベストの形というのを模索しながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

さらに、実証の計画があるということで進めていただきたいと思います。以前から、市としてもかなり調査、研究というのは進んでいると思えます。そういう点でいきますと、ここはぜひですね、オール糸魚川で事業者や他地区を含めて協議、調整していただいて、すみ分けなり、役割分担

ですね、そういうことも具体的に調整していただきたいですし、それから小型車、それから予約方式の導入なども効率化を図る点で有効ですので、そういうものも具体化を早めていただきたいと思います。それでこそ、住民の要望に応じて、充実度を高めるということができるとと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

それでは、2の会計年度任用職員の処遇について再質問です。

先ほど数字を伺いましたけれども、人数としては416人ということで、正規職員のかかなりの数、9割近くの人数がいますと思われる。さらに、その中でも女性が83%近いという数になっております。そういう点からいきますと、専門職の場合もそうですけれども、正規職員として女性をもっと採用できるのに非正規に置き換えているというふうにも見えますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

市役所における専門職員、特に保育士の人数は不足しております。本来、正職員として働いて、もちろん、ほしいんですけども、中には、例えば子供さんが小さいうちはパートとして働きたいというような本人の希望として選ばれているというところもございます。社会人枠でも募集は続けておりますので、できれば職員として働いていただくには促してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

糸魚川市は、ハッピーパートナー企業に登録しています。女性の採用、登用、活躍を推進しているわけですから、女性が低賃金で通常業務を担っているようなやり方ではなく、希望者は積極的に正社員、正規職員として募集・採用すべきと考えます。今もそういうをお話しいただきましたけれども、そういう点をぜひ強力に進めていっていただきたいと思います。

定員管理計画数ですね、現在市が持っている定員の管理計画数と職員実数で30人近い枠がまだあるわけですから、男女の賃金格差解消のためにも人口流出の対策や、さらには地域経済への波及効果もあるわけですので、ぜひ前向きな採用を検討していただきたいと思います。

次に、時間外勤務についての声です。

先ほどは、1日2時間程度されているというお話でした。聞いた中では、来客者の対応で30分以上残っても時間外手当がつかなかった。逆に、お客がいても時間になったら帰ってくださいと言われたという話が寄せられています。こういうことはよくあることなのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

先ほど平均月2時間の時間外勤務というふうにしてなります。今、議員が言われる状況、どうい  
う状況でそのような発言になったかというのはちょっと承知はしておりませんが、基本的  
には時間が、しっかり記録をつけて支給をするようにしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

当然、聞いた方も、対応する人がいなかったから使命感を持って対応したというふうに思います。  
ですから、手当を当然つけるべきものはつけていただくということになると思います。

また、そういう人が足りないというような職場には、市民に対するサービス低下にならないよう  
に、勤務時間を見直すなり、人を手当すべきと考えます。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

やはり働きやすい職場環境を整えるというところは、課題だと思っております。その中で今、議  
員言われるように、例えば窓口の受付時間を短縮して、働きやすい職場にするというところは検討  
は必要かと思えますし、その場合には、やはりじゃ、そこを補うための、例えばデジタル化を進め  
るとかということも、いろいろなものを総合的に考えて対応する必要があると考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

当然、働きやすい職場というのは必要ですし、それからやっぱり市民サービスということも非常  
に重要だと思います。そこにちゃんと対応していただけるような体制をつくっていただくというこ  
とが必要だと思います。

それで、1の⑦のところでもった、週5日、1日7時間以上働いている方が64人いらっしゃる  
ということです。つまりはフルタイム、すいません、これは、この人数はパートタイムの人数でよ  
ろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

フルタイムは、正職員と同じ7時間45分を勤められる方になります。それより短い場合は、全てパートタイムとなります。また、学校管理員等で7時間45分勤務をされる方もいらっしゃるのですが、夏休み等の長期休暇が休みとなるため、トータルでは正職員の時間より短くなるということで、パートタイムということで集計をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

（4）のほうの通知の内容とも関連するんですけども、フルタイムより、僅かに短い勤務時間をパートタイムに設定することは適切ではないというのが、総務省の見解です。ひどいところは、15分フルタイムより短いだけでパートタイムにされていると、そういう実態があるそうです。フルタイムとパートタイムで処遇にどんな違いがありますか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

どちらも任期付の非常勤公務員であることは同じでございます。

フルタイムは、やはり時間が長い分、正職員に近い待遇ということで、月給また、期末勤勉手当、退職手当が支給されます。

パートタイムにつきましては、業務も非常に幅広く、勤務時間にも長短がありまして、勤務時間によっては期末勤勉手当が支給されない方もいらっしゃいます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

やはりそういう点では、わざわざパートタイムを増やすために、仕事があるのにパートタイムを増やすというようなことはやめていただきたいと思います。それは総務省のほうも適切ではないとしますので、それをお願いしたいと思います。

それから、（2）につきまして、定年はないという、年齢的なものはないということですが、妊娠、出産、育児休業を理由に年度更新しないということはあるですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

それを理由に、お辞めになっていただくということはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

分かりました。

更新につきましては、客観的な能力実証によるということになっておりますので、ぜひ面談する担当者に徹底していただきたいと思います。

それでは、（3）のほうに入ります。

会計年度任用職員は、1年更新の不安定雇用にあります。更新時の精神的負担は大きいものがあります。中には、ハラスメントと取られかねない状況が発生しやすいとも思います。丁寧な対応をぜひお願いしたいと思いますが、そのハラスメントについてですが、相談窓口が総務課になっていきます。相談しても正規職員の言い分のほうが優先されているように受け止められる方もいらっしゃいます。外部などの第三者機関への相談窓口も必要ではありませんか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

外部の相談窓口は用意しておりまして、周知はしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

それでは、（4）のほうでお願いします。

この総務省からの通知は、令和7年度の会計年度任用職員制度の施行状況に関する調査の結果を踏まえて出されたものです。文面は丁寧な文章なんですけど、中身につきましては、何回言っても直ってないじゃないかと、そういう怒りの内容になっております。

その中の4番、再度の任用についてというのがあります。そこでは、複数回の任用が繰り返された後に再度の任用を行わないこととする場合には、事前に十分な説明を行う。ほかに応募可能な求人を紹介する等、配慮をすることが望ましいと指摘しています。この問題での相談が多いということがうかがえますけれども、本市としては、年度更新しない場合に十分な説明や求人紹介等の配慮はされていますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

適切な時期に、担当課のほうから本人の意向を確認し、もしお辞めになる希望であるとか、あるいは業務がもう終了してしまっていて更新しない、引き続きの募集はもうないんだということもしっかり説明するようにして、指導はしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

すいません、今のところ、もう一点の求人紹介等の配慮はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

個々の事情で、例えばそういう相談があれば、こういうところはあるよとお答えをした例はございますけれども、まずそれは本人さんのご希望を聞きながら対応はしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ぜひそこら辺も細かい配慮、丁寧に配慮していただきたいと思います。

それでは、3番の防災・減災のところで再質問です。

（1）の孤立地区では、3集落ということでした。それらの地区につきましては、通信手段の確保やライフライン対策などはされていますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えをいたします。

まず、通信手段につきましては、各地区の代表者の皆様と携帯電話をご登録いただいたり、また、全ての区長さんというわけではありませんが、スマートフォンの通信用アプリで連絡が取れるといった体制も整えてきております。

また、防災担当としてライフライン対策でありますけれども、ライフラインが途絶している状況ですとか、そういったところの、まずは把握に努め、復旧対策の指示を出すといったところになっ

てきます。その後、どのような対応を取るべきかという判断をしながら、場合によっては、ほかの県とかへの支援を求めるといったところもありますし、避難所におけます生活用品ですとか、そういった備蓄の対応をしていくといった形になってこようかと思えます。個別の孤立集落対策といいますよりは、糸魚川の場合、先ほど3集落と申し上げましたけれども、様々な可能性で孤立する可能性というのもあるかと思えますので、全市的に備蓄等での対応というのは、大切かというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

それでは、防災ハンドブックを見ましても、避難所につきましても、地震のときには避難できるけれども土砂災害や洪水のときには避難所とされないところも多くあります。先ほどもいろんな地区で、条件があるという話でしたけれども。そういう点で、二次被害の危険がある場合の避難行動、要するに地震で避難していても、土砂の災害の警報が出れば、じゃ、どこへ逃げたらいいのかという、二次災害の危険がある場合の避難行動について、地元で周知はされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

まず、議員おっしゃられるように、指定避難所につきましても、災害の種類によって避難してよいかどうかという判断をしていただくということが一番大切かと思っております。したがって、私どものほうでも出前講座などを通じて、この災害ではこの避難所に逃げるといったお話をさせていただいたり、皆さんのほうからもそういったことをよく考えていただく、この災害の場合にはここへ逃げたら駄目だ、こっち側に逃げなければならないといったことをお話しいただくように、話を進めているところであります。

議員おっしゃられるように、既に災害が発生して避難所に避難している中で、再度の、別の災害での避難といったことになると、一旦、災害対策本部というのが立ち上がっている状況かと思えますので、新たな災害の情報を早期に提供を、避難している方々に提供して、改めて避難指示等の対策を取ることが大切だというふうには考えております。市民の皆様からも、そういった情報を得る手段というのを避難時に携帯できるようにしていただくということも大切かとは思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

やはり地震だけではなくて、地震とともに土砂災害、それから水害というのは非常に起こりやす

い市内になっておりますので、ぜひですね、両方に効く避難場所があれば一番いいとは思いますが、そこら辺の検討もお願いしたいと思います。

もう一点ですね、特に糸魚川市、大雪が降り続いた後に雪崩の危険もあります。防災ハンドブックには記載がありませんが、雪崩の危険箇所について、地元やスキー場には周知されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

市のホームページではなくて県のホームページになるんですけれども、雪崩危険箇所マップですとか、そういったところを周知をしております、市のホームページの中では、地域の防災計画の中で、雪崩の発生危険箇所というのを公表している状況であります。

市のほうといたしましては、雪崩注意報ですとか気象情報によりまして、雪崩が発生しやすい状況となるような場合には、安全・安心メール等により注意喚起をしているといったところが1点ございます。

また、過去に雪崩災害が発生したような場所におきましては、事前に警戒活動を行っております、例えば雪崩の前兆と言われます雪庇ですとか、クラックと言われるような状況がある場合には、地元のほうにも連絡をさせていただくとか、立入規制の看板を設置するとか、そういった行動は取らせていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

スキー場でも雪崩というのは起きる可能性もありますし、そういう点ではですね、市内に訪れている観光客も含めて分かりやすいような形で周知をお願いしたいと思います。

それから、（2）のほうに行きます。

市役所の耐震化、随時対応というお話でしたが、やはり市役所自体がしっかりしなければ、初動対応もできないということになりますので、ぜひそこら辺は早めに対応をお願いしたいと思います。

私が調査で伺いました岩沼市では、大震災でも市庁舎に津波の被害がなく、地震発生から14分後には避難指示が発令され、避難所が開設されています。33分後には、市役所からFM放送が開始されています。66分後には、水の供給や炊き出しを開始し、自衛隊の救出活動も開始されました。1時間ぐらいで、これぐらいがもう既に行われたということ。この迅速な対応は、ぜひ参考にしたいと思いました。

糸魚川市は、行政組織の再編で、4月から危機管理課が新設されます。防災の体制が強化され、発災時の初動対応が迅速になることを期待したいと思います。

それでは、（3）のほうです。要支援者の登録数は1,500人を超えているということで、糸魚川市は、能登半島の自治体と同じように高齢化率が高い状況です。要支援者対策は、関連死を防

止する上で非常に重要です。登録を促していただいて、福祉避難所への誘導も含め、対策をぜひお願いしたいと思います。

(4) のほうですが、車中泊対策というのは考えていないというお話でしたけれども、いろんな理由で車中泊、ペットがいるとか人がたくさんいるところには行けないような方もいらっしゃると思います。車中泊というのは、いつの場合もかなりの数であるというふうに考えております。そういう点では、避難所に集めるというだけじゃなくて、そこら辺も考慮したやり方を、支援のほうをぜひ、関連死を防止するというためにもお願いしたいと思います。

それから、5番の室内用のテントにつきましては整備を進めていただいているということで、テントにつきましては、間仕切りよりも精神面も含めて1台で何役もの効果があります。しかも収納袋ごと避難者に渡すだけで、ポップアップ式やワンタッチ式なら袋から出すだけで簡単に出来上がります。設置が非常に今容易になっております。大小があり、家族ごとに使用できます。1台2万円前後からもあります。関連死防止にも効果が大きいので、ぜひ検討願いたいと思います。

それから、避難所や仮設住宅への入居などで、地区単位でまとめるようにして、コミュニティを維持したというのが岩沼市の教訓でした。参考にさせていただきたいと思います。

(6) の船舶活用医療につきまして情報収集中ということで、始まったばかりなのですが、法律のほうはかなり前からできておりました。

糸魚川市は、鉄道はもちろん、国道や北陸自動車道が寸断される危険が十分にあります。大規模災害のときに不足する医療関係者や手術室、ベッド等を一度に運搬してきて、多くの傷病者を受け入れることができる。また、入院中の患者を被災地外に運送・搬送もできます。そういう点で、船舶は災害時に大きな力を発揮します。

そこで、伺います。

姫川港は、耐震化されていますでしょうか、分かればお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

新潟県の地域防災計画の中で、港湾・漁港施設の地震対策というものが定められております。ご指摘のように当市の姫川港につきましては、西ふ頭の1号岸壁が耐震工事の整備済みということで公表されております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

船舶活用医療では、当面は民間船舶の活用ということで、フェリーの会社と協定が結ばれております。そういう点でいきますと、1万トンを超える船舶になる可能性もあります。ぜひ姫川港を災害時に使用できるように、新潟県に整備を要望していただきたいと思います。最後、要望です。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）